



三重県産木材で
家を建てた人たち

実例集
Vol.4

8

例

I

四日市市 Kさん邸の場合

大きな縁側のある 伝統工法で建てられた家

施主夫妻は二十代の若さで、木と土壁、瓦葺きの平屋を建てた。南面に開いた大きな縁側が、茶畑の広がるのどかな風景に溶け込んでいる。

設計・施工したのは、地元工務店の三代目だ。職人たちが、近くの材料で建てた祖父の代。品質より速さとコストが重視された父の代。三代目は、初代の家づくりに戻りたくて、志した。

二十畳のリビングダイニングは、スギの床板が足裏に心地よい。柱は県産のヒノキ。剥き出しの天井を見上げれば、マツの地棟と梁が力強く大屋根を支える。金物を極力使わない木組みの伝統工法は、耐震性にも優れているという。

切り返しの技で塗られた土壁や、堅牢な作りつけ家具も、近くの職人によるもの。掃き出し窓は通常の1・5倍の幅を取り、そこにも木製建具がはまっている。開け放せば縁側と一体化し、開放感たっぷりの空間が創出する。

玄関からリビング、子供部屋、寝室と、奥へ進むにつれて徐々にプライベート色を濃くする間取りで、床の間を備えた立派な和室もある。私的な部屋ではより落ち着けるよう、あえてリビングよりも節の少ない材が使われている。

伝統工法で建てられ、細やかな気配りが行き届く家は、家族を包む理想の器と言えるだろう。



茶畑の多いリビングはモダンな印象。通常の1.5倍幅の窓は懐かしい亀甲模様。堅牢な本間柱はトチの木で作られた。



写真右／玄関の三和土襖には、竹小舞の通風用小窓が。
写真中／広い縁側が特徴の南面。縁側を覆う屋根の一部分は、採光を考えてガラス張りになっている。
写真左／職人技を感じさせる端正な和室。

- 設計・施工／森工務店 TEL.059・329・2610
- 建築坪単価 約65万円



2

菰野町 Kさん邸の場合

道具としての機能美に徹した 有節スギ利用の「箱の家」

家を建てるにあたっては、とにかくシンプルにしたかったというオーナー。その願いに応えたのが『平成文化住宅』を提唱する建築家だ。文化住宅というと、戦後、核家族化に対応して、大量に建てられた簡易な家が思い浮かぶが、「平成文化住宅は、予算を抑えながらも、楽しく豊かな生活が送れる家」を基本としている。建築家は、使い勝手のよさを最優先に、県産材の使用やOMソーラーの導入など、家主が思いもしなかったアイデアを盛り込んだ。結果、冬は暖かく夏は涼しい住まいが完成した。

外観はガルバリウム鋼板とサイディングの組み合わせ。そこには木の家という強いアピールはない。家はさりげなく周囲の風景に溶け込むべきというのが、建築家の持論なのだ。

一転して板倉造りの室内は、スギ板の壁や床が一体となり、木の温かさと広がりをも十二分に感じさせる空間となっている。二階フロアが若干低く設計されているため、上下階に分かれても意識はつながっている。

「帰ってくるたびに靴下を脱ぎたくなるんです。さっぱりした木の感触が気持ちよくてね」

道具としての機能美に徹した『箱の家』は、オーナーのライフスタイルを見事に映している。



写真右／大きな窓が開放的な書斎。北面ゆえ外光がやさしく、公園の緑を一望できる。

写真中／夫人の要望でつくられた省スペースのテーブルセット。

写真左／落ち着いた外観は、ことさらに木の家を主張しない。耐候性とメンテナンス性にすぐれ、ローコストなのも「平成文化住宅」の狙い。

●設計／(有) 阪竹男建築研究所 TEL.059・322・5096

<http://www.2.cty-net.ne.jp/hagiswty/>

施工／(株) 松田建設 TEL.0594・22・5878

●建築坪単価 約52万円(外構含、設計・監理除く)



床と壁にスギ板を張り、山小屋のようなリビング。銀色の円柱はOMソーラーシステムのダクトだ。

3

津市 I さん邸の場合

スギと漆喰壁でつくられた スローライフを愉しむツイノスミカ

春には花見、秋には月見——。ウッドデッキから四季を愛でられる I さん邸は、定年をひかえたご夫婦が、自然素材の家をテーマとする建築家と、伝統構法に明るい大工と組み、三年以上かけて建てたスローハウスだ。

玄関を上がると、すぐリビング。南東に位置するそこは、たっぷりの自然光と薪ストーブのおかげで、エアコンなしでも十二分に暖かい。土台はヒノキ。柱や梁、床材には宮川森林組合のスギが用いられている。目にやさしい木肌の色と、クリームからホワイトへ徐々に色調が変化している漆喰壁。それにレトロな照明とがあいまって、訪問者に懐かしい印象を抱かせる。

リビングキッチンを建物の中央にすえ、両脇にそれぞれ和室と洋室をひとつずつ。二階にごんまりしたロフトがあり、それで全室である。

左官の手で土佐漆喰をほどこした壁は、ゆっくりにじっくり乾いている最中。土を塗っては乾かし、また塗って……昔の家は、こうやって時間をたっぷりかけて建てられるのが本来だった。

庭には夫婦二人が食べきれないだけのミニ菜園をつくり、雨水をためて水やりを行う。時計に追われず、太陽と共に目覚め、月と共に眠りにつくスローライフ——終の住処はこうありたい。



天井高が低めに設定されたリビングは、薪ストーブ一台でぬくぬく。暖房効率が良いのだ。

下見板張りの外壁は、雨を下へと送る効果がある。ウッドデッキは庭仕事の休憩場所にも。



写真右／ステンレスの流し台をはめこんだ、木製オーダーキッチン。

視き窓の向こうに、リビングがある。

写真中／縁なしの方丈畳を敷いた和室。

写真左／玄関から納戸まで一直線にスギの床が伸びている。

●設計／大森建築設計室 TEL.059・255・0250

<http://www.h4.dion.ne.jp/~ohmori.n/>

施工／中村建築 TEL.0598・58・1696

●建築坪単価 約79万円

4

津市 Kさん邸の場合

玄関を境に公私を区分 職人の心遣いが宿る紀州材の家

夫人が自宅で茶道を教えているKさん邸は、玄関を境にパブリックとプライベートがきちんと分けられている。

左手が水屋を備える縁側と茶室。右手が居住スペースとなっていて、どちらも紀州産のヒノキやスギがふんだんに使われた和の空間だ。

玄関は生徒さんの待ち合いも兼ねているため、腰かける式台が設けられ、スギ張りの床や天井が目にとやわらかでほっと気持ちが良い。

キッチンが完全独立型。雑多なものが何ひとつないリビングダイニングは、内壁の珪藻土と木肌の美しさがどの角度からも存分に楽しめる。

コストを抑えるためプレカットの有節材が使われたが、目につく柱にはほとんど節が見当たらない。請け負った大工が、同じ等級の中からできるだけ節の少ないものを選び、適材適所に使い分けたためだ。

「端材で収納や建具まで作っていたいたり、暮らしてみても初めてわかる工夫をたくさんしていただきました。建築に携わった全ての方にお目にかかれたことも、安心につながりました」

予算内で希望を叶えてくれる建築家に巡り会い、職人たちの細やかな心遣いで完成した家は、日々大切に住まわれている。どうやら木には、作り手と住み手、双方の愛情が籠るらしい。



茶道の教室に通ってくる生徒さんの待ち合いも兼ねた玄関。天井も床もスギ。

モノトーンの外観はソリッドな印象だが、内部には和のくつろぎ空間が広がっている。



写真右／二階廊下の手すりはヒノキ、スギ、竹の組み合わせ。スギ板には大工の遊び心で、欄間風の飾り彫りが施されている。

写真中／ロフトが設けられた二階の子供部屋。床板はスギで、壁面はシナ合板張り。

写真左／リビングダイニングのテーブル越しに見た和室。

●設計／Y's建築設計事務所 TEL.0595・82・9700

●施工／池田建築 TEL.0595・82・3076

●建築坪単価 約57万円



5

名張市 Kさん邸の場合

高さ七メートルの吹き抜けから 光と風が盛大に注ぐ木組みの家

あまりの開放感に、つい天井の方ばかり見上げてしまう。Kさんの家は、高さ七メートル、十四畳分のリビングの上部がそっくりそのまま吹き抜けになっているのだ！

二階は二方が大窓で、陽光がたっぷり降り注ぐ。風の通りも申し分なし。なにより大工が設計・施工した木組みの家だから、夏は湿気を吸収して涼しく、冬は水分を放出して心地よい暖かさを保ってくれる。どこにもエアコンは見当たらない。

木のドアを開けると、大谷石を敷いた土間が奥までまっすぐ延びている。ここで靴を脱ぎ、リビングやキッチンへ直接上がるのだ。

壁面はすべて左官による土壁で、色や風合いが変わっていく様子を「味わい」として楽しむ仕掛け。客間だけは、落ち着いた中塗りがほどこされていくが、ほかはあえて中塗りの手前の大直しで留められている。竹小舞を見せた「下地窓」など、大工と左官の遊び心も随所に。厚い土壁は、木材と同じく高い断熱性能と耐震性を持つという。

分厚い板張りの階段を上り、スギの角材でできたキャットウォークをたどると、平屋部分の屋根に載った木製月見台へと至る。夕暮れ時、ここで名張の山並みを眺めながら飲むビールは格別と、Kさん夫妻はいう。



リビング上部に見える太い梁は、粘りのあるマツを使用。他の部分には、スギが用いられている。



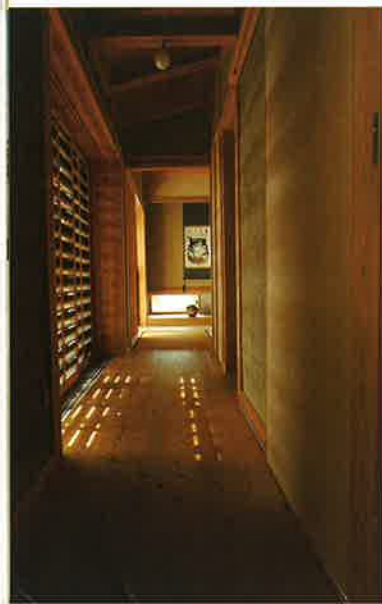
写真右／採光用に三つの窓が設けられている木のドアは、建具師による手づくり。軽やかに、客を出迎えてくれる。

写真中／外壁は、無塗装のスギ目板張り。板をタテに張っているため雨は下へと落ちていき、白木の色がきれいなまま保たれている。

写真左／来客にも対応できる和室へは、渡り廊下でつながれている。

●設計・施工／吉住建築工作舎 TEL.0595・44・1958

●建築坪単価 約70万円(税別)



6

松阪市 Sさん邸の場合

ハードな外装で癒しの場を包む 内と外の“ギャップを楽しむ家”

床板に無垢材を張った二階リビング。近くを流れる川の見晴らしもよく、快適なスペースだ。



一階が吹きつけ、二階はガルバリウム鋼板で仕上げた異素材のコンビネーション。全体真っ黒な外観が人目を引くSさん邸は、初見はいかにもハードなイメージ。だが、中へ入ると一転ウッドイナ癒しの空間に包まれる。

共働きで忙しい夫婦にとって、憩いの場となる家に——と数々の要望を盛り込んで、二階にリビングとキッチン、一階に寝室と子供部屋、ユーティリティーを集約させた。

夢の実現に関しては最初、大手ハウスメーカーに相談したが「そんな間取りは無理」と匙を投げられたという。ところが、さすが地元工務店は快く引き受けてくれたのだそう。

県産のスギとヒノキを構造材に用いたリビングは、畳の小上りと、ご主人のミニ書斎を包括する。道路に面する立地上、リビングが階上にあるのは採光や眺めの面から考えても大正解だったという。

「さほど広くない空間なんですけど、木がふんだんに使われているから和むんですよね。友人はみんな長居です」と、もてなし係の奥さんは微笑む。

工務店のあるじは、自らも古い日本家屋を改装した家に住まうだけに、四六時中エアコン頼りの「閉じた」家よりも、自然の風が入り、冬は家族が一間に集まることで暖かさを体感できる「開いた」家こそがよいと気付いているのだ。



写真上／黒い外観が近寄りたいたい印象をかもすが、内部は一転フレンドリーな木の世界。
写真下／オーナーがこだわった階段は、黄色くペイントされた鋼材と木の組み合わせ。館内のシンボリック的存在となっている。

- 設計・施工／(株)明和工務店
TEL.0596-52-0199
<http://www.meiwa-k.jp>
- 建築坪単価 約50万円

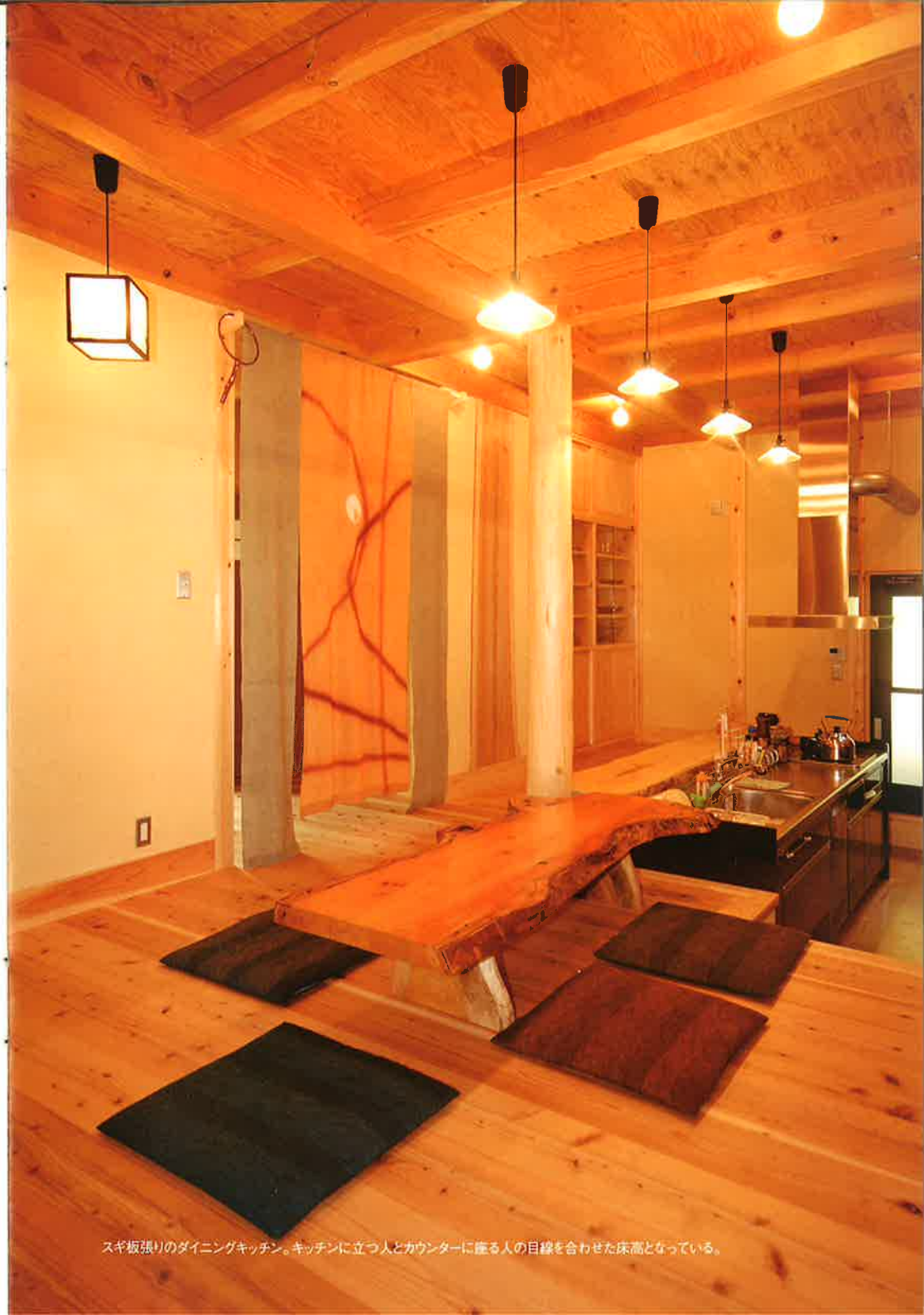
度会町 Nさん邸の場合

里山にたたく案山子のように 家族の暮らしを見守る木の家

里山の緑に囲まれた度会町の山裾、田んぼのそばにその家は建っている。母屋のすぐ隣に寄り添う蔵のような佇まいで。傾斜のある敷地をフラットに均すのではなく、うまく活用した「スキップフロア」のある家だ。主室となるダイニングキッチンから、階段五つ分下の空間がリビング。その真上に中二階があり、視線の動きが新鮮だ。それゆえリビングは、ちょっと地下に潜っていく感覚だ。陽当たりのいい明るい部屋なのに、主室から離れる分だけ秘密基地めいている。トチの一枚板カウンターがあるダイニングは、まるで割烹のよう。作りつけの棚には趣味で集めた器が。漆喰壁の一部には、背もたれ用としてスギの一枚板が張られている。ここで食べた飲み飲んだりする時間は、さぞ豊かで愉しかりう。浴室も凝っている。壁と床に名のある石を張りめぐらせ、浴槽は高野マキの誂え品。友人たちに「旅館みたい」と羨ましがられるたびに、施主は細部までこだわった甲斐があったという。「木も石も、一つとして同じ表情がないところに惹かれます。時間が経つほど、味わいを増すところも。柱も梁も黒光りするまで、愛着を持って住み続けたいですね」



写真右／蛇の目瓦の屋根、刻み囲いの外壁など、外観は蔵のイメージでまとめられた。
 写真中／浴槽は高野マキの誂え品。窓を開けると、露天風呂気分が味わえる。
 写真左／ごんまりした旅館のような玄関には、父親から贈られた木の下駄箱が据えられて。
 ●設計・施工／なかもら建設株式会社 TEL.0596・25・6363
<http://nakamurakensetu.jp>
 ●建築坪単価 約55万円



スギ板張りのダイニングキッチン。キッチンに立つ人とカウンターに座る人の視線を合わせた床高となっている。

8

大台町 Nさん邸の場合

土間と吹き抜けが心地よい 宮川スギの平屋

森林資源の豊富な大台町に暮らす施主夫妻の家づくりに、まったく迷いはなかった。

「間取りやデザインより、宮川材ありきでした。自然素材に包まれて過ごしたかったのはもちろん、地域環境と地場産業のためには当然のこと」

陽当たりが良い敷地に建てられたのは、東西に長い平屋。アウトドア派のオーナーの要望で、玄関から裏口まで通り土間が設けられ、その左右にパブリックなリビングと、プライベートな居室が配されている。

構造材や内外装材は、すべて地元産のスギと近郊のヒノキ。箱階段や玄関戸、障子戸など、建具類もそれらでしつらえられている。

「建具などは、伝統的スタイルを心がけました」設計は、伊勢の町並み保存で知られる建築家だ。勾配の大きな屋根裏は、リビング側が梁などを現しにした吹き抜けで、土間の向こうは階上に物置スペースが設けられている。

土間には収納式の廊下が仕込んであり、小さい二人のお子さんが自由に動けるよう、今はクッションフロアで覆ってある。リビングの大空間は、土間に設置した薪ストーブが暖める。

敷地を囲む未完成の板塀は、施主自らが休日にDIYで宮川スギを張り進めているところだ。



古民家も思わせる木組みが力強いリビング。土間を跨ぐ橋のような廊下は、収納式だ。



写真右／玄関は北面ながら、ガラス入りの引き戸で明るい。

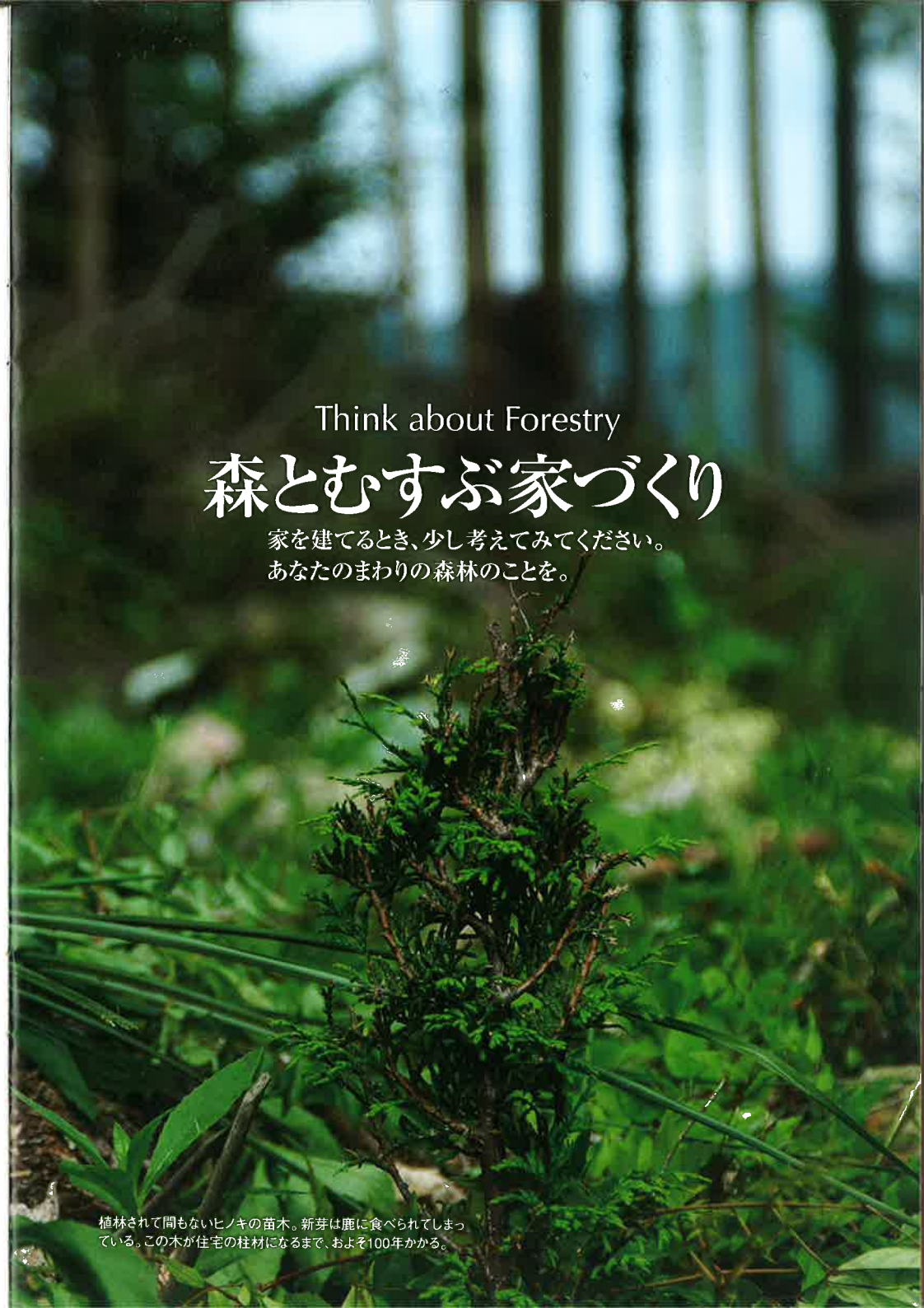
写真中／木製建具は伝統的スタイルをテーマに設えられている。

写真左／外壁の木を護るため、軒は深くなっている。

●設計／(有)高橋徹都市建築設計工房 TEL.0596・27・0455

施工／水谷住建 TEL.0598・76・0011

●建築坪単価 約55万円(設計・監理除く)



Think about Forestry 森とむすぶ家づくり

家を建てる時、少し考えてみてください。
あなたのまわりの森林のことを。

植林されて間もないヒノキの苗木。新芽は鹿に食べられてしまっている。この木が住宅の柱材になるまで、およそ100年かかる。

地域林業を取り巻く環境

ほんの半世紀ほど前まで、家は近くの山で育った木で、近くの大工さんが建てるのが当たり前でした。それが最も手取り早く、安価だったからです。

家だけではありません。学校や駅舎、机や椅子などの家具も、近くの山の木でつくられていました。戦後間もない頃までは、国内で使われる木材の九割以上を自給していたのです。

ところが、高度経済成長期頃から核家族化が進むと、木材需要が急増。輸送ルート の確立や、円高、人件費の上昇も手伝って、輸入材がどっと入ってくるようになります。気が付けば、二十世紀の終わりには、日本の木材自給率は二割を下回っていました。

さらには、人口の増大や都市化により、かつては木造だった建物が、鉄骨や鉄筋コンクリートへと姿を変えていきます。

また、木材に変わる軽量鉄骨や石膏ボード、ビニールクロス、サイディングといった新建材がどんどん開発され、いつしか

「国産の木は高い」といったイメージがすっかり定着してしまいました。

安価な輸入材のおおりに受けて、スキの山元立木価格は一九八〇年をピークに下降の一途を辿り、四十年前のレベルにまで下落します。木材を供給する林業従事者は、かつての五十万人から数万人にまで減り、適正な管理をされずに放置された山林が、いたるところで見られるようになりました。

いつしか、家は近くの山の木で大工さんが建てるのではなく、展示場やカタログで品定めをして、ハウスメーカーに建ててもらおうのが当たり前になってしまいました。

しかし、便利さ豊かさを追求するあまりの行き過ぎた経済発展は、やがて産業の空洞化を招き、地方を過疎化させ、地球環境に負荷を与えることがわかってきました。

さらには、新建材の接着剤等に用いられる揮発性物質が原因のシックハウスが叫ばれるようになると、木や土といった自然素材への回帰が始まったのです。

衣食住の基本は身土不二

近頃、「身土不二」「地産地消」という言葉を目や耳にする機会が増えました。

人間は、自らが暮らす気候風土でとれた物を食べるのが健康によい。地域で産した物を地域で消費するのが、地域経済のためになるという考え方です。

もともと、人間の暮らしは地域の自然を基本にした自給自足が原則でした。

住居もしかり。石が豊富なヨーロッパでは石の家が、乾燥地帯では日干しレンガの家が、熱帯雨林では木の枝と葉で家がつくられたように、国土の三分の二が森林で覆われた緑の列島・日本では、木の家が最も理に適っているのです。

森林資源の良さは、石油などの地下資源と違って永久に更新が可能なこと。

維持管理に人手は必要ですが、素材生産に使われるエネルギーは太陽光と雨水、大地の養分のみ。金属やプラスチックの生産現場が少なからず環境破壊を進めるのに対して、森林は光合成により二酸化炭素を吸収し、フレッシュな酸素を供給

してくれま
す。
それだけではありませ
ん。森林は、雨
水を蓄える天然のダム
でもあるのです。
森林がなければ、山に
降った大雨は一気に表
層を流れ落ち、すぐに
川の水は絶えてしま
います。

緑の循環を守るために

三重県の森林のうち三
分の一が自然林で、残
りは人工林。いわば木
の畑です。
スギやヒノキの苗木は
、良材に育つまで約百
年かかります。その間
、木の成長に応じた手
入れが欠かせませんが
、放置されたままの山
では森林内の光が不足
し、ヒヨロヒヨロのモ
ヤシ林となります。

たおやかに枝葉を広
げ、どっしりと大地に
根を張ることができな
い細木は、強風になぎ
倒され、大雨が降ると
表土の流出を引き起
こします。

これでは緑のダムたる
水源かん養機能を發揮
することはできません。
山に苗木を植え、その
ままほったらかしにし
ておいたのでは、百年
後、良材に

育つわけがありません。

木の背が低いうちは、
草やシダに日光を遮ら
れないよう、何度も下
草刈りを行い、節の少
ないまっすぐな木に育
てるための定期的な枝
打ちが欠かせません。

新芽や若木の皮を食べ
る鹿除け対策、大雨で
崩落した林道の整備な
ども、必要に応じて行
わねばなりません。将
来、百年生の太い材を
得るためには、徐伐や
間伐といった作業も必
要です。

林業は、百年先を見越
した究極のスロープロ
ダクトです。今、植林
という投資をした林業
家が、生きているうち
に、その木の利益を得
ることはまずありません
。明日がわからない不
安定な時代に、山に木
を植えるという行為は
、少なくとも百年先ま
では森林環境を維持す
るといって、使命感に
ほかならないのです。

木を植えて、育てて、
伐採して、植える。こ
の緑の循環を維持す
るために、われわれ消
費者は、家を建てた
り、家具を買うときに
、少しでも林業の置か
れている現状に思いを
馳せ、何を選択すべ
きか、考える必要があ
るでしょう。

森林の管理サイクル



植林

植物が芽吹く春、皆伐された山に苗木を植えていく。新芽が鹿に食べられないよう、周囲にはネットが張り巡らされている。この木が利益を生んでくれるのは約百年後。



下草刈り

夏、苗木より成長の早い草が日光を遮らないよう、草刈りをする。てっぺんの枝が草の高さを追い抜くまで、何度も繰り返される。



枝打ち(背丈打ち)

材木になったとき、なるべく節が残らないよう、下方の不要な枝を切り落とす。地上から手の届く高さまでの枝打ち。



枝打ち(ハシゴ打ち)

右写真より樹齢を経て、背が高くなった木を、ハシゴに登って枝打ちする。不安定な足場で、なるべく木の皮を剥かないよう、細心の注意を払いながら。



間伐

密植されたままでは太陽光が不足し、のびのびと枝が張れないので、数十年ごとに間引きをする。百年生の良材を育てるには、欠かせない作業。



造材

伐採した木を一箇所に集め、枝を払い、規定の長さにカットする。山主の印を捺し、トラックに積んで麓の市場へ。

Think about Forestry

百年先を見つめる究極のスロープロダクト
森の仕事を知っていますか

健康で快適な暮らしに

木は山から伐り出され、製材されて、住宅の一部となってからも生きて呼吸しています。

山に生えていた頃、地中から水分や養分を吸い上げ、枝に送っていた無数の管が空気層となり、湿気が多いときにはそこへ水分を吸収し、乾燥すると放出してくれるのです。

この空気層は断熱材の役割も果たすので、木の家は冬暖かく、夏は涼しいのです。例えば、炎天下に長時間置かれた鉄板は、熱くてとても素手で触れませんが、木ならそんなことはありません。無垢材のフロアなら、汗ばむ季節でも素足で快適に過ごすことができます。

ビニールクロスや壁や合板のフローリングは高い気密性がありますが、呼吸をしないので結露しやすく、カビやダニを発生させる原因となります。

さらに冬は冷たく、夏はべとつくので、スリッパなしではいられません。だから年中エアコンが必要となるのです。

存率を比較したところ、木の箱では90%、金属では50%、コンクリートではわずか5%という結果が出ました。

これは、コンクリートや金属にマウスの体温が奪われてしまったから。動物は熱を奪われるとストレスを生じ、落ち着きをなくします。もともと動物は地中の穴や木の枝、うろなどに巣をつくり、中には冬眠するものもありますが、人間とて進化した哺乳類に違いないのですから、木や土の住処が最も快適なはずですよ。

年月を経て味わいを深める

かつては端午の節句に、柱へわが子の身長を刻み、健やかな成長を喜びました。柱のキズは幸せな家庭を象徴する物語でもあったのです。

学舎が木造だった頃は、腰板や床板にみなで雑巾掛けをしました。そうやって木とふれ合い、物を大切にすることを学んだのです。

木材は色や木目、節など、同じ木でも製品にばらつきがあり、乾燥の度合いも



適切に維持管理された森林は明るい。地表まで光が届くので、下草が生い茂り、表土の乾燥を防いでくれる。

Think about Forestry

呼吸する自然素材 木の家に暮らしてみませんか



八十年生のスギの断面とスギ板張りの床。



木は
湿度を調整してくれる
音や光の反射がやさしい
断熱効果が高い
有害物質を出さない
手入れ次第で長持ちする
年月を経て味わいを増す
やがて土に還る

また、そういった新建材の接着剤に用いられる石油系溶剤は、シックハウス症候群の原因物質と言われています。木や土壁、イクサ(畳)など、呼吸する自然素材は、常に室内を快適に保ち、有害物質を放出することはありません。

人偏に木と書いて「休」

木には音や光を直接反射せず、一度受け止めてからやわらかく反射するので、目や耳が疲れないという性質があります。

森林浴でリラクゼーションできるように、人は木の空間が最も休まるのです。休むという字は、人偏に木と書くではありませんか。

静岡大学農学部の研究に、マウスの飼育実験があります。外気温25度とき、コンクリート、金属、木製のケージでそれぞれマウスを飼育し、子を産ませて生

一定ではありません。

呼吸により収縮するので、乾燥する冬場は縮んですきま風が入ったり、梅雨時は建具の開け閉めが重くなったりします。また、乾燥が進むにつれて割れや反りが生じることもあります。呼吸するという木の長所は、実は短所と表裏一体で、これが均質で施工の容易な新建材に取って代わられた要因でもあります。

木は湿気のため込みすぎると腐ります。これは腐朽菌によるものですが、それは役割を終えた後、土へ還ることができる証でもあります。プラスチックは、決して微生物によって分解されません。

こういった木の特性を知った上で、湿気が多い場所には腐りにくい木を用いる、あるいは窓を開けて通気を心掛けるなどすれば、木の家は長持ちするのです。

法隆寺は、築後千三百年を経た今なお、手を入れられながら、風雨に耐えて威風を保っています。田舎に行けば、築百年の木造家屋はめずらしくありません。

年月を経て味わいを深める木と、暮らしてみませんか。



健康な暮らしと
ふるさとの森林を
再生するために
家を建てるなら
近くの山の木で



「三重の木」認証シールの
貼られた木を使いましょう

三重県木材協同組合連合会

三重県津市桜橋1丁目104

TEL.059-228-4715 FAX.059-226-0679

<http://www.inetmie.or.jp/~mokuren/>

(注)本書記載の建築坪単価は、あくまでも目安です。延べ床面積、地盤の状況、設備等によって異なります。また、設計・監理料・消費税を含むものと含まないものがあります。

三重県産木材を使う住まいのご相談は